

# 会議録

会議名	令和7年度第2回北広島市スポーツ推進審議会
日時	令和7年10月22日(水)午後6時30分から午後8時00分
会場	3階会議室
出席委員	寺田会長、佐藤副会長、柳沼委員、碓井委員
欠席委員	伊藤委員
市出席者	杉原課長、白水主査、佐藤(仁)主事、佐藤(玄)主事

## 1. 開会(午後6時30分)

「委員の過半数が出席していることから、審議会が成立していること」を確認した。

## 2. 会長あいさつ

## 3. 協議事項

### ①北広島市スポーツ振興計画の中間見直しについて

#### (1) 資料に基づき事務局から説明

#### (2) 質疑応答

##### ア) 中間見直しの基本的な考え方について

事務局 今回の改訂は本市におけるスポーツ関連施策の教育分野からまちづくり分野への捉え方の変化、スポーツ所管部局が教育部から経済部へ移管されたことを踏まえた内容となっている。スポーツの価値が教育的な枠組みから街づくりという大きい枠組みに変更となった。

C委員 全国的にスポーツ部門は経済部所管になっているのか。

事務局 自治体によって教育委員会や保健福祉部で所管するなど、自治体がどのように捉えているかで所管部署が決まっている。最近だと教育部から移管しているところが多く見られる。

また、北海道もスポーツ局スポーツ振興課として独立しており、国もスポーツ庁としてひとつの行政機関となっている。

A委員 教育部局から市長部局へ所管が変わったから大きく改訂となったのか。

事務局 一番は市民のスポーツに対する感情が変化してきたことが理由である。

そのため、市の組織が変わったから大きく改訂したのではなく、スポーツの価値が教育だけでなくまちづくり全体へと広がってきたため、市の組織も変わったものである。

A委員 スポーツの捉え方が広がったということなのか。

事務局 スポーツが担える部分が大きくなっている。

## 会議録

今までは自身の健康のためにスポーツを行うひが多かったが、最近「見る」「支える」ことでスポーツが生きがいにつながっている人も増えている。

- A委員 現代は自身でスポーツを行わなくても見て楽しむ時代である。  
先日の北海道日本ハムファイターズのクライマックスシリーズも福岡県まで行って応援し、生き生きとしている人の姿をテレビで見た。  
本市の「スポーツ実施率」は高い方なのか。
- 事務局 全道平均よりは高く、全国平均と同じくらいであるが、国の目標は70%である。
- B委員 「基本目標3 スポーツ環境の整備」について、環境の整備は大きなテーマである。  
総合体育館の立地場所は良いが、総合体育館まで来る手段がないという課題は解消しなければならない。  
新しい施設を作ったり、公共交通機関を取り入れたりすることはできないのだろうか。
- 事務局 心理的、物理的にアクセスできるのかは課題だと把握している。  
具体的施策の記載は難しいが、「スポーツ環境にアクセスできる環境整備」という文言の記載も必要かもしれない。
- A委員 総合体育館へ西の里地区や大曲地区の市民は公共交通を利用しては来られないのではないか。
- 事務局 バスだと乗り継ぎが必要となる。
- A委員 地区体育館に器具は設置されていないのか。
- 事務局 地区体育館は総合体育館のサブアリーナくらいの大きさの体育館と、卓球ができるプレイルームからなっており、トレーニング器具は設置していない。
- C委員 各地区の高齢者や学生が利用しているのは見かける。ただし、用具も限られており、場所も広くはないためできることは限られている。  
一方で、最近、地区体育館の方から市外の利用者が多いと聞く。比較的空いている地区体育館は市外の方も専用で利用しやすい状況である。
- 事務局 市外利用者が多い現状は把握している。現状だと近隣の厚別区や恵庭市に比べ、本市の利用料金は安くなっている。現在、料金改定に向けて手続きを進めている。
- A委員 現状の本市の利用料金はたしかに安いと感じている。
- C委員 今回の改訂はスポーツの考え方が広がったので大きく変更となったということが良いか。
- 事務局 そのとおりである。
- C委員 本市と連携協定を結んでいる5つのプロスポーツチームを教えてほしい。

## 会議録

---

- 事務局 北海道日本ハムファイターズ（野球）、北海道コンサドーレ札幌（サッカー）、レバンガ北海道（バスケットボール）、アルテミス北海道（バレーボール）、北海道イエロースターズ（バレーボール）の5つである。
- A委員 第5章について、スポーツ協会でも60歳の加入者が減少している。理由は恐らく、これまでは定年退職後にスポーツ団体に加入していた層があったが、仕事を引退する年齢が上がったため、スポーツ団体への加入者が減っていると考えられる。
- 事務局 アンケート結果からも50代までは運動実施率は上がっているが、60代の実施率が上がっていなかったのが課題と感じていた。A委員の言うとおりの実施率が上がらないひとつの要因かもしれない。
- A委員 どここの団体も新しい人が入ってこないという話を聞く。
- 事務局 そのような人たちに向けて今後対策が必要である。
- A委員 子どもの数も減っており、剣道少年団は各々の運営だと維持できず、3つの団体をひとつに統合した。  
総合体育館で利用が多い種目は何だろうか。
- B委員 バドミントンが多い。ただし、市民だけではなく、札幌市や恵庭市などの市外利用者も多い。本市の総合体育館が空いているのと、他自治体だと時間割が厳しく本市総合体育館の方が利用しやすいとの声も聞いている。  
また、一番利用者が伸びているのはトレーニング室の利用者である。
- A委員 トレーニング室の利用者も市外が多いのか。
- B委員 市内利用者も多い。安いし設備が整っているため、初めて来られる方も増えている。
- C委員 本市には温水プールがない。札幌市では温水プールがあり、高齢者もプールを歩くなど手軽な運動ができて良いと思う。
- A委員 温水プールは維持費がかかるようだ。
- C委員 温水プールがある自治体とない自治体の運動実施率の差が気になる。
- B委員 昔、温水プールがほしいと話したことがある。温水プールがあると運動の幅も広がると思う。
- C委員 私自身も温水プールがあれば通いたいと思う。
- A委員 たしかに温水プールはあるといいと思う。
- C委員 それか、温水プールに代わるものがあるといい。60代で働いているひとの中にはハーフ勤務が多い。60代になると働いたあとに運動しようと思っても運動こうと思にくい。
- 事務局 第5章「3.ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」に手軽にできる運動要素も実施していく旨の記載が必要かもしれない。

## 会議録

---

- C委員 冬になったら歩くスキーを実施する高齢者は多いのか。
- B委員 総合体育館に用具を借りに来る高齢者は多い。
- C委員 クロスカントリーは体への負担が少なくて実施しやすい。
- A委員 実施するとしたらどこで行っているのか。
- B委員 レクの森かエルフィンロードで実施している。
- A委員 歩くスキー連盟が解散となったが、今後もレクの森で実施できるのか。
- 事務局 北広島高校の授業で実施するため行うことはできるが、高校の授業は1月頃であり、それに向けて整備するかたちになると思う。
- A委員 総合体育館で実施している人はいるのか。
- B委員 総合体育館にコースは整備していない。
- 事務局 総合体育館で用具の貸し出しをしているのは良いことである。ただ、総合体育館まで来なければ実施できないという課題もある。
- A委員 エルフィンロードは除雪していないのか。
- 事務局 生活道路として利用されている共栄地区までは除雪をしている。それより先のコースは除雪していない。
- A委員 スポーツボランティア数は伸びていないのか。
- 事務局 体感として伸びている感覚であったが、アンケート結果では伸びていない。
- A委員 アンケート回答者がたまたまボランティアを実施していない方々なのだろうか。
- 事務局 エスコンフィールドでのファイターズボランティアは増えている。一方、本市で募集しているスポーツボランティアは、現状「F ビレッジハーフマラソン」のみであり、機会が少ないのかもしれない。
- C委員 プロスポーツチームと連携して試合運営ボランティアをつのっていくと良いかもしれない。学生の中にはやりたい子も多いと思う。
- 先日、エスコンでビーチバレーの試合を行った際も市内中学校のバレーボール部がボランティアをしていた。
- C委員 部活動が廃止に向かっているが、これは教育委員会の管轄か。
- 事務局 現時点では文化系の部活動もあるため教育委員会の管轄であるが、スポーツ系の部活動がクラブ化したら当課の管轄になってくると思う。
- C委員 文化系の部活動はどうなるのか。
- 事務局 文化系の部活動も地域移行していく予定だが、整理には時間がかかりそうだ。
- C委員 スポーツ系の部活動はスポーツ振興課、文化系の部活動は別所管になるのか。
- 事務局 文化系の部活動は教育委員会に文化課があるが、今後の移行期間で整理していく予定。モデル事業を行い、検討していく。
- A委員 部活動の地域展開はうまくいっているのか。

## 会議録

---

C委員 今は様々な地区でクラブチームができたり、合同チームができたりしている。  
事務局 一概に合同にすることは難しい。東部地区と団地地区で合同チームを作るとなれば距離的に学生だけで移動はできるが、それが東部地区と大曲地区の合同チームとなれば難しい。

A委員 サッカーの先生が言うには、サッカーの指導方法は決まっているとのこと。そこに民間などの外部が入ってきて、違う教え方をされても困るという話もある。

事務局 今後、休日は学校での部活動は行わない方向に進むと思われる。そうなった際、平日は顧問が教え、休日は民間などの外部の方が教えることが良いことなのかは課題である。

A委員 競技中に生徒が怪我をした際、だれが責任を取るのかという話にもなる。

事務局 責任問題についても整理が必要。昔は中体連の引率は必ず顧問が行うこととなっていたが、現在は外部担当者の引率も可能となっている。

A委員 本市は学校区が多く、合同は難しいのではないか。

C委員 市内中学校の男子バレーボール部は東部地区と西部地区の合同チームである。そのため保護者の送迎が必要となっている。

事務局 西の里地区と大曲地区はどうなっているのか。

C委員 現在は西の里地区の生徒は東部中学校に転校して通っている。以前は、大曲中学校から東部中学校へ転校して通っていた生徒もいた。

A委員 現在、バレーボール少年団はひとつだけなのか。

C委員 昔はもうひとつあったが指導していた先生が転勤となり廃部となった。

A委員 指導者によってチームの強さも変わってくる。

事務局 部活動の地域展開が進めば、スポーツをするために転校することはなくなるのではないか。

事務局 中学生のスポーツ環境の整備は当課の課題でもある。

C委員 移行期間の子どもたちがかわいそうな気もする

(3) 今後の進め方について事務局から説明

4. 閉会（午後8時00分）